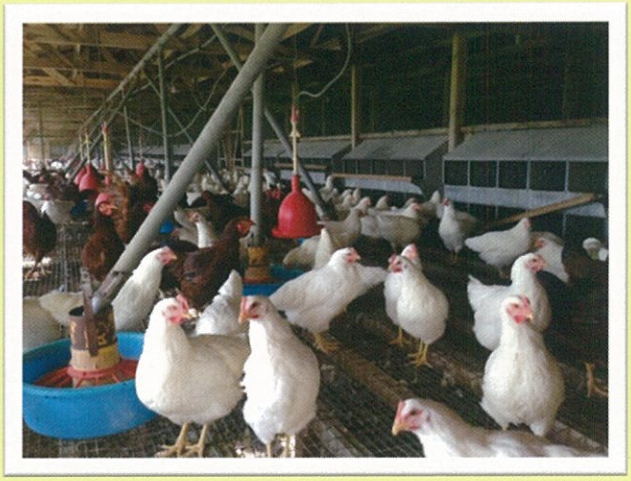
アビヘルスRU　ユーザー訪問レポート①

関東地方のA農場様のお話

**A農場様は、レイヤー種鶏農場でアビヘルスRUを2011年11月から
ご愛用されております。**

アビヘルスRUを使い始めたきっかけは？

『鶏種やロットによっては雄鶏の育成率が悪く、産卵初期の受精率が気になっていました。営業の方より紹介された雄の睾丸の写真を見て、受精率改善に補助的に使えると思い使用してみました。』



ご使用方法はどのようにしていますか？

『成鶏舎に移動した120～130日令より190日令まで飼料に0.1%添加しています。』

ご使用頂いた感想は？

『何らかの問題で雄鶏の育成率が悪いロット、もしくは配雄率が低いロットでも過去の成績と比べ、産卵初期の産卵・受精率を心配する必要が無くなり精神的な負担も軽減しました。現在はアビヘルスRUを保険的な意味も含めて全ロットで使用しています。』

A農場様では2012年5月より「生みたて卵の直売店」を開設しています。
清潔感あふれるお店では、社長の奥様自ら豊富な知識により接客され卵のおいしさ、こだわりの卵をPR。生産者と消費者のパイプ役を努め、地域のコミュニティー広場となっております。

こだわりの卵

- 群馬県産の桑粉末を使用したピンク卵の桑卵
- 乳酸菌、納豆菌、酵母の力によって作られた赤卵のふわふわ卵

もちろん贈答用の化粧箱入りや普通卵もあります。
詳しくはお店で奥様に聞いてください。

店内には卵ばかりでなく、親とりの炭火焼き・卵スープ・たまかけしょうゆ・笹川流れの塩・クッキー等も販売しており、季節によっては新鮮野菜があるかも！

〔製造元〕株式会社 牛越生理学研究所
千葉県佐倉市石川601-1

アビヘルスRU　ユーザー訪問レポート②

九州地方のA農場様のお話

A農場様は、地鶏の種鶏農場でアビヘルスRUを2012年11月からご愛用されております。

アビヘルスRUを使い始めたきっかけは？
『四季を通して産卵・受精率を安定させる方法を日々模索しておりました。最初に営業の方から紹介を受けた時は、昨今数多くある添加物の効果について疑心暗鬼でしたので試験区を設けて気軽な気持ちで始めてみました。』

ご使用方法はどのようにしていますか？
『試験区では顕著な変化を見たいが為に29～180日令まで通しで0.1％添加しました。現在は産卵開始前の130～160日令と50％産卵到達前の190～210日令の2回に分けて0.1％添加しています。』

ご使用頂いた感想は？
『産卵・受精率の変動幅が小さくなり上昇傾向を体感しました。自然と対峙した鶏管理生産ですので全てがアビヘルスRUの影響とは言い切れませんが、現在のところ添加を中止する理由は見当たりません。』

A農場様では、10年前から国内で唯一、くまもとの地鶏『天草大王』の雛生産に取り組んでいます。万が一の時の代替品が入手出来ないというプレッシャーの中、これをエネルギー源とし、日々の管理・研究・成績向上への活動をされています。

《くまもとの地鶏『天草大王』》
肉質の美味しさから「博多の水炊き（鍋料理）」の素材として珍重されていました。熊本県が10年の歳月をかけて絶滅からの復元に成功した日本最大級の鶏。五感で堪能の出来る美味しさを贅沢に味わえる一品です。

〔製造元〕株式会社 牛越生理学研究所
千葉県佐倉市石川601-1

アビヘルスRU　ユーザー訪問レポート③

九州地区のA農場様のお話

A農場様は、ブロイラーの種鶏農場で4万羽を飼育されており、アビヘルスRUを2012年4月からご愛用されております。

アビヘルス RUを使い始めたきっかけは？

『授精・孵化率の改善を目指しておりましたが、ゼノアック様のご紹介と、農場の飼養管理についてご指導頂いている方のアドバイスもあり、取りあえず雄鶏だけに給与を始めました。』

ご使用方法はどのようにしていますか？

『当初は雄鶏のみの給与でしたが、現在は産卵立ち上げ時期の20週令より産卵ピーク手前の28週令ごろまでの約2ヵ月間、雄鶏・雌鶏両方に給与しています。』

ご使用頂いた感想は？

『相対的に生産性が改善されてきました。この改善について、外部機関からの客観的な評価を頂きました。この評価は大きな励みとなり、今後の更なる改善に向けた意識改革にも繋がっています。』

今後の目標についてお聞かせください。

『最終目的である雛質の向上にむけて、種卵の活力を更に高めるための取り組みを模索しています。

特に夏場対策を主眼に置き、飼養管理の改善はもちろんですが、アビヘルスRUのような製品やその他の製品を有効的に利用する方法も検討していきたいと考えています。』

〔製造元〕株式会社 牛越生理学研究所
千葉県佐倉市石川601-1

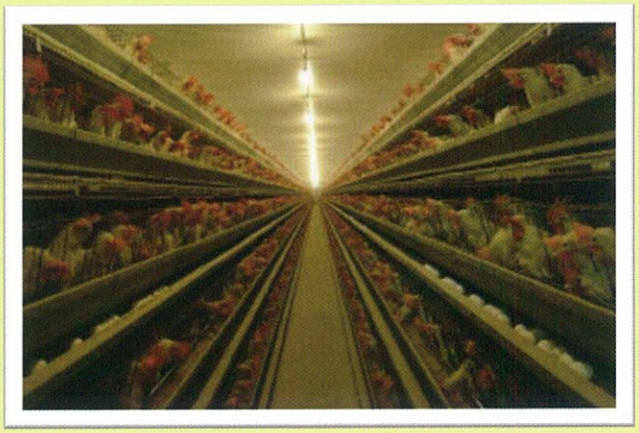
アビヘルスRU　ユーザー訪問レポート④

東北地区のA農場様のお話

A農場様は、採卵鶏の農場で26万羽を飼育されています。
アビヘルスRUを2012年4月からご愛用されております。

アビヘルスRUを使い始めたきっかけは？

『自社育成を行っていますが、産卵の立ち上がりが安定しないロットが時々出てきます。
　50%産卵からピークまでの立ち上がりが安定しているロットはその後も順調に推移する傾向があることから、育成段階で鶏を揃えるために使い始めました。』



ご使用方法はどのようにしていますか？

『弊社では90日令～120日令までの約1ヵ月間アビヘルスRUを0.1%飼料に添加しています。当初はすべて農場で添加していたのですが、現在は90日令～105日令までは農場で添加し、105日令～120日令までは飼料会社にお願いしてプレレイヤー飼料に0.1%添加してもらっています。』

ご使用頂いた感想は？

『50%産卵から産卵ピークまでの立ち上がりがスムーズになり、ロットによるバラツキも少なくなりました。50%産卵からピークまでが約2週間となり、生み出しも揃っています。育成時の体重管理と点灯管理さえ注意していれば、性成熟は整っているように思えます。これは、鶏冠の赤色が揃っている事によっても確認出来ました。
　一時期90日令～105日令での農場添加を忘れたことがあったのですが、産卵の立ち上がりにバラツキが見られるようになりました。季節的な要因もあったと思われますが、現在は忘れずに添加し、成績も回復しました。やはり90日令からの添加が良いようです。』

幻の地鶏 会津地鶏

いにしえの昔…
　平家の落人が、会津地方に持ち込んだと言われる美しく気品の有る鶏で、会津の厳しい自然の中で絶滅寸前になりながらも四百年以上会津の歴史とともに継承された、日本で最後に発見された幻と言われた地鶏です。
　会津地鶏は、通常の鶏と比べると半分程度しかたまごを産みません。そのため、たまご本来のコクや美味しさが充分に凝縮されています。

【商品名】会津地鶏のたまご　※写真はイメージです。

〔製造元〕株式会社 牛越生理学研究所
千葉県佐倉市石川601-1